

再評価結果（令和4年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：長谷川 朋弘

事業名 一般国道50号 <small>まえばし かさかけどうろ</small> 前橋笠懸道路	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省	国土交通省 関東地方整備局	
起終点 白：群馬県前橋市今井町 <small>まえばし いまいまち</small> 至：群馬県みどり市笠懸町鹿 <small>かさかけちょうしか</small>	延長	12.5km		
事業概要 一般国道50号は、群馬県前橋市を起点とし茨城県水戸市に至る主要幹線道路である。 前橋笠懸道路は、群馬県内の国道50号で唯一の2車線区間である前橋市今井町～みどり市笠懸町鹿間における慢性的な交通渋滞を解消し、地域住民の生活環境における安全性向上を目的とした延長約12.5km、4車線のバイパス及び拡幅事業である。				
H13年度事業化	H18年度都市計画決定 (H-年度変更)	H21年度用地着手	H24年度工事着手	
全体事業費	約427億円	事業進捗率 (令和3年3月末時点)	約28%	
		供用済延長	0.0km	
計画交通量	25,900～42,500台/日			
費用対効果 分析結果	B/C： <small>(事業全体)</small> 1.7 <small>(残事業)</small> 2.6	総費用： <small>(残事業)/(事業全体)</small> 275/439億円 事業費：220/382億円 維持管理費：55/57億円	総便益： <small>(残事業)/(事業全体)</small> 718/732億円 走行時間短縮便益：610/623億円 走行費用減少便益：61/60億円 交通事故減少便益：47/48億円	基準年： 令和3年
感度分析の結果 【事業全体】 交通量：B/C=1.5～1.8（交通量 ±10%） 事業費：B/C=1.6～1.8（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=1.5～1.7（事業期間±20%） 【残事業】 交通量：B/C=2.3～2.9（交通量 ±10%） 事業費：B/C=2.4～2.9（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=2.4～2.7（事業期間±20%）				
事業の効果等 ①慢性的な交通渋滞の解消 ・主要渋滞箇所が連坦する国道50号現道の交通混雑が緩和。 ②地域住民の生活環境における安全性向上 ・バイパス及び拡幅事業により、車両相互の追突事故をはじめとした交通事故の減少し、国道50号の交通安全が確保。				
関係する地方公共団体等の意見 群馬県知事の意見： 本事業は、国道50号の交通渋滞の解消、道路交通の安全性向上を図る上で重要な事業であり、早期の効果発現に向けて事業継続を図られたい。特に、上武道路との交差点を含む前橋市今井町から二之宮町間の現道拡幅区間の早期完成に向けて事業推進を図られたい。 また、コスト縮減を徹底し、効率的、効果的に事業を推進されたい。				
事業評価監視委員会の意見 事業の継続を了承する。				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 北関東自動車道（伊勢崎IC～太田桐生IC）が平成20年3月供用。				
事業の進捗状況、残事業の内容等 ・平成11年度～平成13年度にPIを実施し、平成13年度に事業化、平成18年度には環境影響評価および都市計画決定を実施し、平成21年度に用地着手、平成24年度に工事着手。 ・平成25年度には鹿交差点の現道拡幅部が開通。 ・前橋笠懸道路の用地取得率は約32%（令和3年3月末時点）。 ・現道拡幅区間（4.5km）とバイパス区間（7.5km）について、調査設計や用地買収、改良工事を推進中。				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 今後も整備の優先度を付け、用地取得・工事を推進し、早期の効果発現を図る。				
施設の構造や工法の変更等 技術の進展に伴う新技術・新工法の採用など、コスト縮減に努めながら引き続き事業を推進していく。				
対応方針	事業継続			
対応方針決定の理由	以上の事業の効果及び進捗状況、関係する地方公共団体等の意見、事業評価監視委員会による審議を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。			

